



10 2025

発行所 大阪府中央区玉造2-24-22 カトリック大阪高松大司教区 広報委員会 郵便番号 540-0004 TEL (06) 6941-9700 (代表) TEL (06) 6946-3223 (直通) FAX (06) 6946-3224 (直通) E-mail: kyokuh@ostk.catholic.jp 編集 広報委員会 発行人 前田万葉

本紙 「点訳版」「音訳」があります。〈無料〉 ※ご希望の場合は下記まで申込み 「点訳版(点字本)」 教区報 ☎06-6946-3223(直通) ☎06-6946-3224(直通) 「音訳(テープ・デジ)」 山口さん ☎0798-22-1649

☆ 平和月間報告 ☆ 幼児教育協議会 ☆ 四国支部教職員研修会 ☆ 第16回カトリック教員養成会 ☆ 坂出・甲子園教会聖信式 ☆ 兵庫教会60周年 ☆ 司牧者からのこの一冊 ☆ 明石教会広島巡礼(中高生) ☆ 広報委員会へのEメールアドレス=kyokuh@ostk.catholic.jp

『教区報』原稿・資料等の締切は前々月末です。

聖年と八十年や終戦日

大阪高松教区大司教 前田万葉枢機卿



教区納骨者および死者
祈念ミサ(大阪)
11月3日(月・祝)10時
司式: 大司教 前田万葉 枢機卿
大阪高松カテドラル 聖マリア大聖堂

合同追悼ミサ(四国)
11月3日(月・祝)10時
司式: 松浦信行神父
カトリック桜町教会納骨堂
(ミサ後) ばあがいの池墓地墓参

新教皇レオ14世は、選任直後、バチカンの聖ペトロ大聖堂のロジアンから、「あなたがたに平和があるように...」この言葉は、復活されたキリストの最初の挨拶です...私もまた、この平和の挨拶が皆さんの心に入りますように、皆さんの家庭に、どこにいたとしてもすべての人に、すべての民族に、すべての地に届きますように。あなたがたに平和があるように」と最後の挨拶をされました。

戦後80年で、特に日本においては「平和」についてのイベントや論議が盛んです。非暴力、非戦、非核などを論じ合うことは当然です。日本司教団も、公式に「沖縄慰霊の日」の行事に参加いたしました。「戦後80年メッセージ」や「核兵器廃絶宣言」を発表しました。アメリカ、韓国、日本の司教有志や「広島被団

協」による「共同声明」も行いました。

しかし、もつと根本的には、冒頭の教皇レオ14世の「復活されたキリストの平和」論を宣教しなければならぬと思えます。それは「ゆるしと和解と希望」の平和です。自分を犠牲にして殺した人たちが否んたり逃げだしたりした弟子たちへの報復ではなく、復活して現れたキリストは、「あなたがたに平和があるように」と仰いました。敵をとるでもなく、批判するでもなく、優しい言葉をかけたのです。この言葉によってお互いのわだかまりは溶けて、以前にも増す「仲間」意識が生まれました。そして、「父がわたしをお遣わしになったように、私もあなた方を遣わす」と言つて、平和の使徒として全世界に派遣したのです。恨んだり敵をと思ったりしたら、いつまでも争いは続くのです。

シノドスと聖年を生きるカトリック教会として、「ともに歩む希望の巡礼者」平和の使徒」となるように呼び掛けたいと思います。

ただ、弱い人間は、争いや暴力、戦争を繰り返してしまっています。だから、戦争が起これば、戦争が大きくなったら、

長崎原爆投下の日 あれから80年

被爆・戦後80年にあたる8月9日、長崎では朝6時と11時に浦上教会主催の原爆犠牲者追悼ミサ、前日の晩から9日にかけては「平和を願う聖体の永久礼拝」、18時からは教区主催の平和祈願ミサ、その後、浦上教会から爆心地公園までたいまつ行列が行われた。

反核を呼びかけるのです。新教皇レオ14世も具体的に、ウクライナのゼレンスキー大統領に停戦仲介を約束したり、たびごとに停戦のための祈りを呼びかけています。

祈りは、信頼と希望と愛を生み出します。祈らなくなつてしまつたら、もうお終りです。何もかも信じられず、失望し、憎しみだけになつてしまします。戦いには、反戦反核を働きかけるとともに、祈りをもつて、根本的な「あなたがたに平和があるように」を実現したいものです。

「聖年と八十年や終戦日」



平和を願ってミサが捧げられた祭壇左側には「パーチェ(ラテン語で平和)の垂れ幕

会場の浦上教会は爆心地から約500メートルにあり、1945年の原爆投下によって約1万2千人の信徒のうち約8500人が亡くなつたといわれる。

9日、11時2分、長崎市のサイレンとともに浦上教会の鐘が鳴り、黙とう。浦上教会の双塔に鐘がそろうのは80年ぶりのことだ。被爆後、からっぽのままだった北側の鐘楼には今年、米国のカトリック信徒らから寄贈された鐘がおさめられ、この日初めて南側の鐘と一緒に平和への願いを込めた音を響かせた。

18時からのミサは中村倫明大司教が主司式、駐日ローマ教皇庁大使フ

ラシスコ・エスカランテ・モリーナ大司教、米国のマッケロイ枢機卿(ワシントン)、スーピッチ枢機卿(シカゴ)、ウエスター大司教(サンタフェ)、エチエン大司教(シアトル)、前田万葉枢機卿(大阪高松)、高見三明名譽大司教、10人の司教(札幌、仙台、新潟、さいたま、名古屋、広島、福岡、大分、鹿児島、那覇)と約60人の司祭団が共同司式をした。米国、韓国の巡礼団とイスラエル・パレスチナ平和交渉の関係者ら計100人余とを合わせ、総勢約1200人が集い、ライブ配信もされた。

▼▼▼
ミサの始めにモリーナ大司教があいさつし、教皇レオ14世が原爆投下から80年にあたってすべての人びとに向けた7月14日付のメッセージを代読した。「この厳粛な祈念の日が、国際社会に対して、全人類家族のための持続可能な平和、すなわち、『武器のない平和、武器を取り除く平和』を追求する決意を新たに呼びかけとなることを、わたしは心から祈ります」と伝え、教皇の言葉を心にとめ、参加者皆とともに祈った。

(情報提供 カトリック長崎大司教区)



ミサ後、たいまつ行列に出発

INTERNATIONAL DAY 2025

外国人が暮らしやすい社会は日本人にも暮らしやすい

A society where foreign residents can live easily is also a society where Japanese people can live easily

2025.10.19 Sun 12:30 ~ 16:00
大阪高松カテドラル聖マリア大聖堂 St.Mary's Cathedral
* No Parking 駐車場はありません
問合せ (information) カトリック大阪高松大司教区 INTERNATIONAL DAY 実行委員会 ☎06-6942-1784/FAX 06-6920-2203 E-mail sinapis@ostk.catholic.jp

ひとりで悩まないで ~私たちに聴かせてください~
カトリック大阪高松大司教区 ハラスメント相談窓口
※委員会はハラスメント全般を視野に入れることになりました。そのため、名称変更します。
電話番号:06-6941-9718
相談窓口受付時間 月・火・金曜日(祝日を除く) 午前10時~午後4時
あなたの悩みを親身になって受け止めます。秘密は必ず守られます。

カトリック大阪高松大司教区典礼研修会
救いの業を記念する典礼奉仕
様々な役割に光を当てる
それぞれの奉仕について心を養う時間にはありませんか 事前申し込み不要

典礼委員さんでなくてもご参加できます
日時:2025年 10月25日(土)13時から
場所:共同司教聖堂桜町教会聖堂 (高松市桜町1-18-9)
講師:西川康廣師
主催:カトリック大阪高松大司教区典礼委員会

入居者、スタッフ募集

株式会社 ガラシア WINGS
サービス付き高齢者住宅 **ドムス ガラシア**

入居者を募集しております。また、看護師、介護職員を募集しております。皆様のご協力をお願い申し上げます。
☎ 06-4960-8020
✉ info@gratia-wings.jp
担当 奥本、濱口

2020年9月、尼崎市園田教会の隣に開業。信徒、修道者、司祭のケアを提供。

平和月間 2025 大阪高松大司教区



希望と平和の巡礼者となろう

～苦しむ人、悲しむ人とともに歩む道～

Let's be Pilgrims of Hope and Peace

-A path to walk with people who suffer and grieve-



先月号では、「平和月間行事」を7月に実施した地区・小教区を主に報告させていただきました。

今月号では、8月に実施した所からの報告を紹介いたします。

「平和月間行事、ご苦労さま」のご挨拶

大阪高松教区大司教 前田万葉 枢機卿

「平和月間」中のさまざまな活動、ありがとうございました。今年から始まった教区平和月間(7月・8月)は、被爆・終戦80年ということもあり、長く広く平和行事(折り・考え・活動)が展開されました。そして、聖年にふさわしく「希望と平和の巡礼者となろう」の意気込みを感じました。新教皇レオ14世の「あなた方に平和があるように。…この挨拶が皆さんの心に、皆さんの家庭に、すべての人に、すべての民族に、すべての地に届きますように。あなた方に平和があるように」の声が聞こえてくるような気がいたします。

シノドスと聖年を生きる信仰者として、「共に歩む希望の巡礼者=平和の使徒」となりましょう。

《姫路地区》

◆仁豊野教会 8/3(日) 難民経験者から来日の経緯・来日時的心情や困ったこと等、また2世3世からは現在置かれている状況等をアンケート用紙に書いていただき、平和祈願ミサで奉納。ベトナム戦争で多くの民間人のいのちが奪われたことを子どもたちが知ることができた。ベトナム語と日本語で平和を願う祈りを唱え、ベトナムの人々がベトナム語の歌を合唱。



◆加古川教会 8/10(日) 平和への折りカード96枚を奉納後、信徒会館に展示して分かち合いをしている。戦争のもたらすものとして「焼き場に立つ少年」の写真を展示。東ブロックのテーマ「飢えて死んでいく子どもたちや戦争がなくなり、平和な世界になるように祈りましょう」が実現しますように。



《神戸地区》

◆明石教会 8/5~6 12人(明石教会、姫路教会各6人) 広島での平和学習に参加。幟町教会、平和資料館、原爆ドーム等を見学し、平和祈願ミサに参加。カトリックユースプログラム(松浦悟郎司教)に参加し、他県の中高生や世代を越えて話し合い、平和の大切さ、核兵器の恐ろしさを改めて実感した。



◆北須磨教会 8/3(日) *映画会『ヒロシマナガサキ』:原爆投下直後の悲惨な映像を交え、日本人被爆者と原爆投下に関与したアメリカ人の証言を中心としたドキュメンタリー。*8/5~6は広島奉納巡礼。闘病中の信徒が平和のために折った千羽鶴を教会で紡ぎ、広島平和記念公園の「原爆の子の像」の下と幟町教会の平和祈願ミサで捧げた。この期間のテーマ『みんなで知ろう、知って祈ろう』を今後も実践したい。



◆住吉教会 8/3(日) 平和祈願ミサで、7月から信徒全員に書いていただいた「平和への祈りのカード」を霊的花束にして奉納した。また、住吉教会の90年の歴史の中での「受難」について知った。住吉教会も空襲により神父方も苦難の日々を送られたこと、初代主任司教・メルシェ神父が官憲によって逮捕・勾留されたこと、外国人司祭が行動の自由を制限されたこと、西村神父の出征などを通して、若い世代に戦争の不条理や「平和の大切さ」を伝えた。



◆六甲教会 8/9(土) ジャーナリスト・西谷文和さんから、現地取材したガザやシリアの現状をお聞きした。中村哲さんはアフガニスタンで食べ物を豊かにすることで人々の心を平和にし、ドイツの平和村は、戦争で傷ついた子どもを受け入れ、治療をすることで平和に貢献した。これらの取り組みに、平和に貢献する今後のヒントがあると感じた。8/30(土)には「平和を祈るテゼの集い」を開催し、聖書を黙想し、世界平和のために祈った。



◆神戸中央教会 8/10(日)「子どもと共に捧げる平和祈願ミサ」の後、絵本『へいわってすてきだね』と『折れたクレヨン』の読み聞かせによって子どもたちに平和の大切さを伝えようと教会学校のリーダーが企画。7月から継続した「平和ツリー」への祈りのメッセージもたくさん集まり、良かった。



◆三田教会 8/10(日) 所属信徒から幼少期の戦争の記憶や当時の生活状況、三田教会創立当時の外国人神父との出会いを通して信仰の道に入ったことを話していただいた。当時は外国人への偏見やデマがあったが、風潮に流されず、本当のことを知ることが大切だと思った。戦争の悲惨さを知り、当時の外国人宣教師の働きに感謝する機会となった。



◆垂水教会 8/15(金) リビングロザリオを実施。一人一人がロザリオの珠になり、祈った。8/17(日) 今後の教会を考え、外国人と日本人が協力し連帯していくことを目的として企画。「平和は和解と連帯」という説教で、多言語のミサを通して世界は繋がっていることを実感した。茶話会では、フィリピン人や日本人の手作りのお菓子が会話もはずみ、心もお腹も満たされた。



◆鈴蘭台教会 8/31(日) ウクライナから神戸に避難されているバレエダンサーのご夫妻に2年ぶりにおいでいただいた。夫のボクダンさんが代表を務めている「ウクライナハウス」(神戸市中央区)には、慣れない日本で孤独を感じている人たちがクリスマス等季節のイベントに集まり、日本人との交流も目指している。突然戦争に巻き込まれて異国の地で生きる家族の姿に、一日も早く平和な世界になることを願った。日本語が堪能になった娘さんの笑顔が嬉しかった。

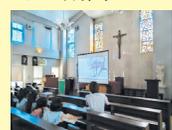


《阪神地区》

◆夙川教会 8/3(日) A.千羽鶴の奉納(17日まで聖堂に設置) B.ドキュメンタリー映画『8時15分 ヒロシマ 父から娘へ』上映会(ブスケホール)。原爆投下の至近距離で被曝した少年の壮絶な体験、いのちの大切さ、逆境に打ち勝つ強さ、平和の大切さ、核廃絶への道などを分かち合った。



◆園田教会 8/3(日) プロジェクターを使用した紙芝居「すべては神様が創られた」を子どもたちの朗読で行った。平和祈願ミサで、皆さんが折った千羽鶴を奉納。長い人類の歴史の中で戦争をしていない期間はたった100年しかないと言われている。戦争は失うものばかりであることを考え、平和の大切さを考えていきたい。



◆尼崎教会 8/10(日) ミサ前に短いビデオ『クリスマス休戦』を鑑賞した。第一次世界大戦中に、最前線で対峙していたドイツとイギリスの兵士が一時的に停戦し、共にクリスマスを祝った実写ビデオ。日曜学校の子どもたちは「小さな羊」をコーラスで披露。戦争の悲惨さ、貧困や飢餓を目にする毎日ですが、子どもたちの笑顔が消えない平和が訪れることを祈った。



◆仁川教会 8/9(土)~10(日)のミサを平和祈願ミサとした。10日(日)9時ミサは国際ミサで、共同祈願は英語、スペイン語、ベトナム語、日本語で捧げられた。7月から平和への祈りを書いていただき、オリーブの枝に結び、聖堂内に飾った。祈りのカードも、四か国語が入り交じり、国際色豊かだった。「戦争は絶対にダメ!」と伝えるのは、今在る私たちの責任だと強く思った。



◆阪神地区社会活動委員会 8/10 仁川教会での平和祈願ミサ後、「阪神地区 平和学習講演会」を実施。講師は、広島原爆死没者追悼平和祈念館から派遣していただいた「被爆体験伝承者」の清野久美子さん。家族の被爆を通して、健康被害や偏見等、戦争・原爆の悲惨さを伝えていただいた。



◆宝塚教会 8/31(日) 平和祈願ミサの共同祈願で、世界各地で起こっている紛争や戦争に不安を覚え、平和の大切さを強く思い、平和を願う祈りがさげられた。信仰を通して平和を願う時間を持つことができ有意義な時間だったという感想をいただいた。



《北摂地区》

◆池田教会 8/3 (日) 池田教会カール記念館に於いて、『終戦とともに始まった少女の記録』を鑑賞。旧満州からの帰国者の記録から、旧満州国のことや戦争がもたらしたさまざまな悲しみや苦しみを知った。もしも自分の身に起こっていたらと考え、不戦の誓いを新たにしました。

◆高槻教会 8/3 (日)：「一匹の迷える羊に関わるということ」一聖書の譬え話を通して日々出会う人たちとの関わり方を分かち合った。8/24 (日)：聖年の公式巡礼団に参加した青年の報告を聴き、質疑応答で分かち合った。通常開催している「社活カフェ」の一環としてリラックスした雰囲気に参加してもらった。



◆千里ニュータウン教会 8/10 (日) 平和祈願ミサ後、皆で聖歌を歌った。8/3 と 8/10 のミサ後、私たちの心をまず平和にするため、食堂でモーツアルトの CD を流した。平和を祈りながら、困難の中にいる人へ心を届けるために、皆で「ごらんよ空の鳥」を歌った。



◆吹田教会 8/10 (日) 平和祈願ミサの後、高田敏子さんの詩「夕焼け」の朗読、歌①水の心 ②ありがとうのうた ③上を向いてあるこう ④アーメンハレルヤを歌った。音楽がみんなの心を一つにしてくれた。戦争の犠牲者、生きて帰国できても苦しい人生を歩んだ人たちの犠牲の上に私たちの平和や幸せがあると感じることができた。



◆茨木教会 8/17 (日) 平和祈願ミサとロザリオの祈りを行なった。皆さんと一緒にロザリオの祈りをする事ができて良かったという感想を多くいただいた。参加しやすかったことが良かった。



◆日生中央教会 8/17 (日) 「キリストの平和」を手話で合唱し、「あなたのへいわ」を合唱した。当教会で支援している「こどもの里」の DVD を上映し、「こどもの里」の役割を深く理解できた。子どもたちが自立するまで寄り添う姿に感動した。平和のための祈りの花束と平和祈願の葉を作成。



《大阪北地区》

◆大阪梅田教会 8/3 (日) 戦後 80 年『あの日の話を聴こう』：お話は広島と長崎の被爆体験者。広島に原爆が投下される一週間ほど前に「広島は安全な場所だから、広島に移動するように」というアメリカ軍が作成したと思われる内容のビラが空からまかれたという衝撃的な話も聞くことができた。8/17 (日)：平和祈願ミサで、平和月間中に書いていただいた平和メッセージを奉納。英語ミサでは平和に関する YouTube 鑑賞会、スペイン語ミサではイエズス会黙想会での内容を講演。



◆今市教会 8/3 (日)、8/15 (金) に原爆短編映画『ナガサキの少年少女たち』、『つるにのって』の上映会を実施。当時の世界情勢が良く分かった。被爆した少年少女たちがその後、被爆者の国家補償や原水爆禁止活動を始めるまでの記録映画で、戦争責任の重さ・いのちの重さと平和への強い願いを改めて感じ、平和であることを感謝した。



◆枚方教会 8/10 (日) 絵本『新・戦争のつくりかた』の朗読・映写・分かち合いをした。「分かち合い形式」にこだわらず、「おしゃべりの場」に近づけた。8/6~8/15 にはロザリオレーを実施。話し合いや茶話会を通じて、戦争前後のことや核の問題など、「普段、自分の思いを語る場が少ないので、話ができ良かった」と喜ばれた。



◆香里教会 8/10 (日) 平和祈願ミサ後、『決断～運命を変えた 3・11 母子避難～』の上映会。毎月 1 回の福島支援募金の機会を通じて、身近なこととして感じているので、自治会の掲示版や信徒へのチラシ配布を行った。原発さえなければ幸せな生活を失うことがなかったのに、避難生活を非難する声とも戦わなければいけない彼らの苦悩を共有。*ミャンマー募金：「シナピスニュース 6 月号」の掲載記事に心を痛めカトリック松山教会宛てに送金。*障がい者自立支援の事業所「クッキー工房 おれんじはうす」に物販機会を提供。「善きサマリア人」に倣い自身の隣人として見る観点での活動を心がけたい。



◆関目教会 7/20 ~8/10 のミサ前に峠三吉の原爆詩集の一編を朗読。原爆詩集の朗読を聴いた感想を書いていただき、祈りの花束にした。8/15 の聖母被昇天の日に、終戦記念日として、教会入口のルルドのマリア様の前に集まり、お告げの祈り、平和の祈りを唱えて、平和の鐘を鳴らした。



◆大東教会 8/10 (日) のミサ後、「命に格差はない—無料低額診療事業制度」についての講話。この制度を知ること、お金がなくて医療を受けられない人たちを支援できる。しかし、政府はこのような費用の削減を検討する一方で、防衛費を膨らませている。弱い人を攻撃する戦争を許す社会が待っている。一人ひとりを大切にする社会を目指し、今できることに取り組んでいきたい。



《大阪南地区》

◆枚岡教会 8/3 (日) 平和祈願ミサ&イポリト・ヴィダ神父によるモザンビークの現状と支援についての講演会「モザンビークの今、そして日本のキリスト者にできること」。ともすれば、無関心になりがち、自分と関わりのあること以外、他国にも関心を持つことが大切だと思った。



◆八尾教会 7/19 (土)：子ども会で「へいわってどんなこと？」の読み聞かせ 8/3 (日)：平和祈願ミサ (共同祈願：日本語・韓国語・ベトナム語・ポーランド語) ベトナム青年によるポートピアの方へのインタビュービデオの視聴。これにより、命をかけて脱出したポートピアの体験を初めて聞いたベトナム青年もおられた。日本人に「受け入れてくれてありがとう」という気持ちも伝えられた。



◆布施教会 8/3 (日) DVD『しではら』上映会。戦前戦後、日本の平和外交に尽力された門真市が生んだ日本の総理大臣・幣原喜重郎氏の人物像と彼の平和への熱意が伝わった。一人の声は小さいが「希望」をもって行動することの必要性を感じた。8/15：折り鶴 2200 羽をミサ中に奉納した。



◆平野教会 8/10 (日) 共同祈願を日本語・英語・フランス語・ベトナム語で唱えた。祈りの内容を把握できるように、翻訳してプリントにした。ミサ中の日本語の聖歌をベトナム語・フランス語に翻訳。閉祭の歌「希望の巡礼者」の各国語の楽譜を用意。事前に 2 回練習。全員で歌う力強さに感動し、全員でミサを捧げたという一致感があった。

◆なみはや教会 8/10 (日) 「世界の平和へ、今こそ一歩踏み出す勇気を！声に出して分かち合う主の平和」のタイトルで、平和に関する各国からのメッセージとメッセージソングを分かち合い、ともに集い、考え、祈った。子どもたちによる合唱、詩の朗読、各国語でのメッセージや歌が響き合い、「平和」を感じた。音楽は、国を越えて心に伝わる。

◆藤井寺教会 8/10 (日) 平和についての共同祈願文を皆さんにお願いし、ミサで捧げ、反戦や平和についての思いを共有した。大国の為政者たちの言動に、世界戦争の危機を感じている。聖堂建て替え工事のため、カトリック藤井寺幼稚園ホールにてミサを行った。

◆玉造教会 8/10 (日) 平和へのメッセージカードを書いていただき、「平和の木」を育てるように彩った。前日から合宿していた多言語の子ども会の 20 数名が「未来の平和を造る子ども達」のテーマで発表。スペインの青年宣教師も交えて「神様のもとでつながる私たち」をテーマに「平和」を考え、「私たち一人ひとりが巡礼者である」ことを問いかけた。



◆泉北教会 8/17 (日) 「ガザについて学び、分かち合い、祈る集い」(講師：夙川教会信徒 西口信幸さん) のテーマで、講演と分かち合いを実施し、祈りの時を持った。パレスチナの歴史と、ガザの現実...家を壊され、故郷も追われ、酷暑の中で食べ物も飲み物もなく毎日何十人もの子どもが死んでいくというパレスチナの現実を知った。考えさせられることが多く、何か行動しなければ...という思いが強くなった。



《和歌山地区》

◆堺教会 8/24 (日) 戦後 80 年の節目に、改めて「不戦」を誓い平和を切実に求めたいという思いで、「アジア・太平洋地域戦争犠牲者 2000 万人一人一人の冥福を祈る会」と社会活動委員会の皆さんを中心に企画・運営した。講師は松浦悟郎司教 (名古屋教区)。テーマは「今、平和ですか?—キリスト者として、何を考え、何をすべきか—」。80 年間戦争をしなかったのは、日本の憲法 9 条の存在と学校や市民グループの働きが大きいことが分かった。平和を守る生き方をしたい。



◆和歌山紀北教会 8/10 (日) テーマ:「つなごう平和への思い~過去の戦争 今の戦争 その始まりは...話そう大切なこと *祈り: 教皇ヨハネ・パウロ二世の広島平和アピールでの「平和の祈り」 *朗読 (原爆体験した母親の手記より) *分かち合い *DVD『戦争のつくりかた』視聴 *まとめ 戦争体験された参加者がいなくなった今、体験を聴いた世代が次の世代に伝え、繋いでいきたい。武器ではなく対話で、非暴力による平和の実現をしたい。



◆今治教会 7/6 (日) から折り鶴と祈りのメッセージを各家庭で作成。8/3 (日) 平和祈願ミサ後、DVD『あなたに伝えたい 今治市の空襲と戦災』を視聴。8/6 (水)「18 回戦災死没者追悼献花と平和の鐘を鳴らす式典」に神父と信徒有志が参加 (写真: 南光坊に於いて) フィリピンやベトナムの兄弟姉妹とも多くの折り鶴や祈りのメッセージを作った。



《岸和田地区》

◆和泉教会 8/10 (日) 平和祈願ミサ、コーラスグループによる平和の祈り、西口信幸さん (シナピス運営委員) による「ガザについて学ぶ」講演会。あらゆる権利を奪われたガザの人たちのことを知り、彼らのことを忘れず、祈ることが大切なのだと感じた。今回の映像からは泣く人々しか見えなかった。共に喜び、共に泣くことのできる真の平和が生まれるよう祈りたい。



◆泉佐野教会 8/10 (日) 故フランシスコ教皇の「2025 年度世界平和の日」メッセージの中から、「聖年の起源」、「不正義と不平等の現実のための 3 つのアクション」、「心の武装を解除して生活の中でできること」を朗読。「キリストの平和」の歌詞を改めて味わった。戦争体験者のつらさや悲しみに思いを寄せ、紛争や戦争で苦しんでいる人々のために祈ることの大切さを思った。



◆貝塚教会 8/10 (日) 2014 年 8 月 25 日に 94 歳で亡くなられたインドネシア最後の元日本兵の動画を鑑賞。日本に帰国せず、最後までインドネシアに留まり、神に召されて天国へ旅立った。インドネシアと日本との親近感が伝わり、日本愛を感じた。彼の信仰の深さを感じた。



◆熊取教会 8/10 (日) ①平和祈願ミサ ②お話し平和へのメッセージ~気がつけば平和にそむいたキリスト者たち~ 川崎洋一さん (当教会信徒): 今まで考えたことがない視点からの話が聴けて良かった。③共同体で捧げるロザリオの祈り: 私たちの共同体が平和の使徒になるための大きな力になると感じた。



◆紀泉ブロック合同 (泉南教会・紀の川教会・岬教会) 8/24 (日) 平和祈願ミサと講話。テーマ:「福音を生きる~隣人に仕える心で平和をつなぐ」 講話: イボリト・ヴィダ神父 *福音の精神に根差した平和の実践 *具体的な行動を通じた気づきの促進 *共同体としての一致と祈りの共有を大切に企画した。「平和への道としての社交性」「偽情報と真実に対する責任」「他者のための祈りと執り成し」は、現代社会の課題と可能性を映し出すものとして、奉仕、傾聴、支援の大切さを学ぶものである。



◆紀伊田辺教会 8/15 (金) 平和祈願ミサ 6/1~沖縄戦終結の日 (9/7) まで聖堂内に展示。Amnesty Japan 田辺よんろくグループを迎えての社会問題勉強会。紀南ブロック教会間で、復活の光のロウソクを巡回させ、共にミサに与った。



◆御坊教会 8/15 (金) 平和祈願ミサ 紀南ブロック 5 つの小教区では、7 月 27 日から「平和のロウソク」と名づけた大きなロウソクを各小教区に回し、平和を祈念する手助けとした。紀南ブロックの「平和祈念祭」は、毎年 5/5 の「龍神の平和祈念祭」から始まっている。

《香川地区》

◆伊予三島教会 8/10 (日) 世界平和を祈念し、信者が一堂に会して共に祈った。日本では戦後 80 年を迎え、「平和慣れ」して、戦争の悲惨さがよく分からない世代が増えているが、世界では多くの人が戦争に巻き込まれ、悲惨な状況にある。そのことを再認識して、平和の実現に向けて、できることをすることが大切だと思う。

◆三本松教会 8/15 (金) 西川康廣助祭作成の資料「太平洋戦争への道」で当時の日本と国際問題を理解し、最高齢者の方に当時の体験談を語っていただいた。戦中戦後の大変さを知り、平和を維持していくために大切なことを学んだ。

◆番町教会 祈りの心を大切に、心一つにして、平和を祈るコンサートを実施。朗読など涙が出るほど感動があり、戦後 80 年の記念の年に行われたことに感謝。

《愛媛地区》

◆松山・道後教会合同 8/3 (日) 毎年行われる「平和月間」の起源や意味を改めて考え、私たち一人ひとりが、共同体として共に歩む行動ができるための行事とする。 *日本カトリック司教団の戦後 80 年メッセージの朗読とその解説。 *2022 年から松山教会が取り組んでいるミャンマー支援についての現状報告。地震の被災者や何年も続く内戦で傷つき、避難している人たちに今後も支援を続けたい。平和月間となって、計画をたてるには時間的ゆとりがあるが、他教会の行事に参加することは四国の現状からは難しいのが実情。



◆八幡浜教会 8/15 (金) ベトナム語、英語、日本語による平和祈願ミサ後、持ち寄りの食事で分かち合いを実施。聖母被昇天祭を含む平和を考える時期に、国の違いを超えて、分かち合いながら過ごす時間は良いものだった。



《徳島地区》

◆徳島地区合同 (阿南・池田・徳島・鳴門教会) 8/12 (火) 講演会ゲストの Sr.マリア・ランも一緒に、ベトナム青年 12 名を含む 22 名が、徳島の伝統芸能阿波踊りを体験し、寝食を共にして交流を深めた。8/13 (水) 平和講演会を開催。 *Sr.マリア・ラン (聖ビンセンシオ・ア・パウロの愛徳姉妹会) は、ポートピアールとなって、生死の境をくぐり抜けてベトナムを脱出した時の体験や奉仕活動、修道会に入会してからの難民支援活動等、半生をお話していただいた。



*ウクライナ人のソコロバ・オレナさんには、故郷ドンバス地方ドネツク州で始まった紛争によって、家族や友人と離散を余儀なくされた体験をお話していただいた。 午後は、講演会の内容をもとに 5 グループに分かれて「霊的分かち合い」を実施。平和祈願ミサ (司式: 酒井司教) で、分かち合いの内容を共同祈願として捧げた。

《高知地区》

◆江ノ口教会 6/28~7/8「戦争と平和を考える資料展」(自由民権記念館)を見学。 8/3 (日) 平和祈願ミサで、マザーテレサの平和の祈りを唱えた。ミサ後、「戦争と平和を考える資料展」を見学した感想をもとに「霊における会話」の形での分かち合いをした。日頃、他の方の思いを聴くことがないので、貴重な体験となった。

◆中村教会 8/17 (日) 平和祈願ミサ後、平和のためにできることを考えるために平和についての分かち合いをした。平和を訴えている方の実体験に耳を傾けることも大切。映画『長崎 閃光の影で』は素晴らしい映画なので関心をもっていただきたいという意見があった。世界の戦争や紛争は報道で聴くが、戦争の本当の苦しみ、悲しみは分からないことが多い。実体験に耳を傾け、真実を知ることが大切だった。



講演と分かち合いとミサで、充実した2日間



子どもたちに伝える「カトリックの心」 四国の先生たちが集まった研修会

第1回カトリック大阪高松大司教区

幼児教育協議会四国支部 教職員研修会

7月24日13時〜25日正午まで標記研修会が、カトリック桜町教会聖堂と四国カトリック会館において「お祈りと神様のお話し〜子どもたちに伝えるカトリックの心」というテーマで開催された。

この研修会は、講師として酒井俊弘補佐司教(カトリック大阪高松大司教区)を招き、四国のカトリック幼児教育施設から80人の教職員が参加して行われた。酒井司教は1日目の基調講話のまとめで、「愛というカトリックの心で教える教職員」が求められているが、そのためには人を変えていくのではなく自分を変えていく必要があると述べ、誰かがリンゴの種を数えることができるが、種の中にリンゴがいくつあるかを数えられるのは神だけである(ロバート・シュラー牧師)との言葉を引用して、信仰と希望をもって幼児教育に携わることの重要性を述べられた。

続いて、受講者が7グ

ループに分かれ、基調講話について「霊における会話」方式による分かち合いが行われた。また別途行われた「園長会」では、今後の幼児教育協議会四国支部の方向性が議論された。2日目は、前日の分かち合いの結果がグループごとに発表された。そのなかでは、「主の祈り・アヴェマリアの祈り・十字架のしるしを個々に解説していただき、基本をあらためて知ることができた」「自分も知らないところでお祈りされていると知り、知らない人も含めてみんなのために祈ることの大切さを知った」「ゆるしに関して、罪(行為 doing)は許せなくても、その人(存在 being)は許すという区別があるのを知ってよかった」「神様のために相手の言い訳を考えてあげるという寛い心を知った」等々多くの気付きが発表された。また、参加者80人全員がそれぞれ好きな果物・野菜とその調理法を短く紹介するという自己紹介ゲームが酒井司教の提案で行われ、笑いを伴った交わりの時間を持つことができた。最後にミサが行われ、感謝のうちに2日間の研修会の幕を閉じた。

(文 学校法人聖母学園 事務長 多田洋)

セコレンで超 ENJOY !

神さまと勇気の花を咲かせよう



大阪高松教区青少年司牧委員会
青年と子どもの錬成会

子どもと青年が共に育む、喜びと出会いの時

8月15日〜17日にかけて、和歌山信愛中学校・高等学校で錬成会が開かれた。65人の子どもと41人の青年が参加した。

私の願いは子どもたちが楽しい3日間を過ごし、夏の思い出を胸に笑顔で帰ってもらうことでした。その中で、貧しい人や悩んでいる人、悲しんでいる人に寄り添うことの大切さと、寄り添う勇気が持てないときでも神さまが常に共にいて、勇気が出るように見守ってくださっていることを伝えました。また、私たちは日常生活の中で神さまから派遣されている存在であることを、子どもたちと分かち合いました。

プログラムの中で「寄り添うことの大切さ」を学ぶため、私が半日子どもたちと離れる時間がありました。再会したとき、子どもたちは私のそばに寄り添い、「もう大丈夫だよ」と声をかけてくれ、その姿に私たちの想いが届いたのだと実感し、心から嬉しく思いました。

子どもたちもリーダーたちも、楽しく笑顔で3日間を終えることができました。これからも、多くの子どもや青年が集まれる錬成会を絶やすことなく続けていきたいと思えます。参加してくれた子どもたち、送り出してくださった保護者の皆さま、一緒に錬成会を作り上げた青年たち、ご指導くださった神父様方、並びにご協力くださった多くの皆さまに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



3日間で5つのプログラムを体験した

(文 青年と子どもの錬成会 小野幸生)

祈りがつなぐ教育

第16回カトリック教員養成会

カトリック校の使命・教員として何ができるのか

8月12・13日に、カトリック教員養成会がサクラファミリアで開催された。テーマから、3人の講師による講話をもとに分かち合いが行われた。本研修には、小学校から高等学校の16校26人の教員が参加した。



大阪高松教区・名古屋教区のカトリック校の教員が参加

第1の講話では、前川和裕さん(NPO法人リテックス副理事長)によって、カトリック校の宗教教育の独自性として心の教育の重要性が示された。特に「一人ひとりの強みを生かす人生を歩めるよう支援すること」「全ての子どもをかけたがえない存在として大切にする」と強調された。第2の講話では、仁川学院卒業生の西尾かほりさんから、卒業後に振り返って実感するカトリック校の良さが語られた。祈りや宗教

行事など学校生活の積み重ねが価値観や人間観を形づくり、その後の人生を支える基盤となっていることが示された。「私は一人ではない。神様が心にいる」と



講話の内容から各グループで分かち合い

いう意識が心の支えとなり、困難に直面した時に力を与えてくれることも言及され、精神的な支えの大きさが確認された。第3の講話では、前香里ヌヴェール学院小学校副校長の西村佳也先生より、心理的安全性のある環境を整えることの重要性が示された。神様から使命を与えられた命を持つ者同士である意識を共有することで、一人ひとりの力を発揮できる学校となることが説明され、カトリック校ならではのアプローチとされた。本研修を通じ、教員一人ひとりが使命を意識し、日々の教育に取り組む必要性が共有された。

(文 城星学園小学校 教員 後藤七海)

堅信の秘跡

へ坂出教会

7月20日、主司式は酒井俊弘補佐司教、共同司式のイスマエル・ゴンザレス神父、硫黄隆二神父とともに、6人の堅信式が荘厳に行われ約100人がともに参加した。

「今日は堅信の秘跡のため赤のスターを着ています」と酒井司教の第一声が始まり、いつにも増して緊張感が張り詰める中、お恵みに浸った安堵感が漂う神聖なミサ

にあずかることができませんでした。ミサ後は、酒井司教様を囲んでささやかな茶話会の場を設け、祝福を受けたり、記念写真を撮ったりと和やかな時を持ちました。



感激の喜び

2020年、秘跡を受ける準備をしていた矢先にコロナウイルスの感染症が流行し始めて以来、毎年今年こそはと実現を心待ちにしていた堅信式でした。やっと念願叶って秘跡の恵みを受けることができ、受堅者ばかり



でなく、信徒一同が感激の喜びに浸ったり、さらに聖体奉仕の勉強を重ねてきた3人も任命式にあずかり、二重の喜びをいただき感慨深い一日でした。

「主はマムレの地のアブラハムに現れた。親切なもてなしの中にアブラハムの信仰の深さを知り、約束の子を与えられた。その正しい姿は答唱詩編で唱われた。世の中には苦しみはあふれているが、その苦しみはキリストの苦しみの欠けた所を、身をもつて満たすためのものとして、喜びを持って務めることを教えていただきました。すべての人がキリストによる救いにあずかるというこれまで秘められた計画が明らかにされ、苦しみもキリストの栄光の希望につながることを教えていただきました」と酒井司教様は説教で話してくださいました。

5月末に交通事故にあつたイスマエル神父様が、まだ十分に回復されていないにもかかわらず、受堅者のために堅信式の勉強を休むことなく続けてくださり、この恵みの日を迎えられたこと、酒井司教様と共に共同司式者として祝福くださったことに大きな喜びを感じていま

兵庫教会 献堂60周年



新たな出発

8月10日、酒井俊弘補佐司教、松永敦神父司式による献堂60周年記念ミサが、厳かに喜びのうちに開催された。

当日は天気予報の通り、小雨の降る朝でした。皆この日を楽しみにしており、いつもより多くの信徒が集まりました。ミサ前の15分間はプロジェクターを使って、兵庫教会の歴史、建物について紹介しました。

記念品は聖堂のステンドグラスをあしらったクリアファイルを作製しましたが、大変好評でした。次の70周年に向け、信仰を新たにす素晴らしいミサでした。これからも、この教会を愛してたくさんの方々が集える教会であってほしいと強く願いました。

たイスマエル神父様が、まだ十分に回復されていないにもかかわらず、受堅者のために堅信式の勉強を休むことなく続けてくださり、この恵みの日を迎えられたこと、酒井司教様と共に共同司式者として祝福くださったことに大きな喜びを感じていま

す。感慨ひとしおの堅信式が受けられて幸せでした。

るころには、皆の心を表しているかのように、雨も上がっていました。ミサ後のお祝いのパーティーでは、多数の信徒が酒井司教様、松永神父様と自由に歓談し、親交を温めました。

教会紹介 (兵庫)

◆ 078-575-5294
◆ 神戸市兵庫区塚本通 4-4-4
◆ 守護 聖家族
◆ 設立年月日 1960年 2月20日
◆ 信徒数 407人
◆ ホームページ
◆ 特色 信徒数はそれほど多くはありませんが、せんが、それゆえアットホームな教会です。最近はおとな信徒が増えています。

◆ おすすめの店
ビストロ・ブティ・ポワ (フランス料理)
芳仙閣 (中国料理)
市場ずし駅前 (すし居酒屋)

へ甲子園教会

8月3日、甲子園教会にて、酒井俊弘補佐司教とホルメント・セサル・アレンケ神父による共同司式で、中学生3人の堅信式が行われた。

酒井補佐司教からは「小さな頃からよく知っている3人で、私にとってもとても嬉しい日になりました」と言葉をおいただき、緊張気味の3人は心が和んだ様子でした。

説教では、豊臣秀吉の辞世の句や、クリスト・ロア修道会のシスターであるご自身の叔母様のエピソードを交えながら、「この世の形あるものは滅びて虚しいけれど、滅びないもの、霊的

なもの、神様に目を向けると虚しくなくなる。信仰を与えてくれ、それに基づいた生き方を教えてくれた神様に感謝しましょう」と呼びかけられました。

ミサ後、ティーパーティーが開催され、酒井司教様を囲み楽しい時間を過ごされました。



しく、コロナ禍の2021年8月に行われた青少年司牧委員会のZoomによる交流会を参考に、平日の夜にオンラインで1年以上かけて準備してきました。和気あいあいとした雰囲気を楽しみながら準備を続け、この日を迎え

ることができました。

受堅者3人の感想

(I) 堅信を受けることによつて今までよりも、もっとイエス様に近づくことができたと感じる。これからも続けて主日のミサに参加していきたいです。

(R) 困っている人がいれば分け与え、助けられる行動力のある信者でありたいです。

(K) 調子の良い時、良くない時、どんな時でも、神様に心を向けられる信者でいたいです。

教会紹介 (甲子園)

- ◆ ☎ 0798-41-1602
- ◆ 🏠 西宮市 甲子園町 20-14
- ◆ 🛡️ 守護 聖フランシスコ吉
- ◆ 📅 設立年月日 1963年
- ◆ 👤 信徒数 65~75人 (ミサ時)
- ◆ 🌐 ホームページ▶▶▶



◆ 特色
高校野球の聖地、甲子園球場から480m 徒歩6分
教会の入口を入るとミケランジェロのピエタが出迎えてくれます。(触れることができます) 聖堂には、京都出身の画家 堂本印象のイエス・キリストのステンドグラス、阪神タイガースを1964年に2度目のリーグ優勝に導いた、ジーン・バッキー投手が寄贈した、十字架の道行と聖家族像が目を見せます。

◆ おすすめの店
【ベトナムダイニング&カフェ GAO】
甲子園八番町 2-5 プロシード 2階
阪神甲子園から480m 徒歩6分
甲子園教会の信徒でもある姉妹が経営するベトナム料理店



落ち着いた雰囲気の中で美味しいベトナム料理をぜひご賞味ください。

月~土 10:00 ~ 15:00
17:00 ~ 20:00
定休日 日曜日

パチカン ニュース

教皇の祈り 全ての被造物と私たちとの関係

「世界と宗教対話を深めるために、パチカンの動向を日本の視点でお届けします」

カトリック教会では、毎月、「教皇の祈りの意向」が示され、教会がその意向に基づいて日々の祈りの中で祈るよう招いている。教皇レオ 14 世は、2025 年 9 月の祈りの意向として「全ての被造物と私たちとの関係」を発表された。教皇が自ら書き下ろされた祈りを分かち合いたい。

9月の意向：「全ての被造物と私たちとの関係」

基本の祈り：「聖フランシスコの霊性にならない、神に愛され尊重されるべきすべての被造物と私たちとの関係が、互いに影響を及ぼし合っていることを体験できますように」

【黙想のための祈り】

主よ、あなたは存在するものすべてを愛し、お造りになったものを何一つ嫌われない。(知恵の書 11・24)。

父よ、すべての被造物はあなたのいつくしみの対象であり、それぞれがこの世での居場所をいただいています。最も小さな存在のほかに命にもあなたが愛を注いでくださることに驚かされます。ほんの一瞬存在する小さなものにも、心を尽くしてまもっておられます。

「主よ、あなたは讃えられますように」と聖フランシスコが言ったように、私も「あなたは讃えられますように」と今日言います。造られたものの偉大さと美しさから推し量り、それらを造った方を認めるはずなのだから。(知恵の書 13・5)。

だからこそ、主よ、この世界とは解決すべき問題ではなく、喜びの賛美のうちに思い巡らす喜びあふれる神秘です。私たちが愛される存在であることを認識する恵みをください。それぞれがあなたに大切にされ、あなたの心に宿され、あなたが思いを寄せる果実です。

「主よ、あなたは讃えられますように」太陽が輝く時にも、夜が訪れる時にも、あなたはすべての被造物の多様性の中におられるからです。存在するもの全てにあなたが映し出されていることに気づく時、私の心はあなたに祈りを捧げたいという望みを感じます。

すべての被造物のために……主よ、あなたは讃えられますように。アーメン。(HP 祈りの花より)



聞かせてください 神さまと出会った時のこと エマオへの道で

特別編 高塚 晃弘 神父 (神の愛の宣教師会)

旧北野教会(現大阪梅田教会)出身で、神の愛の宣教師会ただ一人の日本人司祭として、インドで働いておられる高塚晃弘神父。今年4月に一時帰国の際、貴重なお話を聞かせていただきました。

父母と私の3人家族、仏教徒の家庭に育つ。春から就職というときに、「マザー・テレサに出会ってインドでボランティアをしよう」というピラを母が持ってきた。キリスト教のことは何も知らなかったが、1995年3月、勇気を出してマザー・テレサに会いに行った。

初めてのインド。《死を待つ人の家》でボランティアをした。最初にヒンズー語で水を意味する「パニ」という言葉を学んだ。「パニ、パニ」とコップをかざす患者に、水を配って走り回った。慣れない暑さですぐに疲れ切った私を見て、ある患者が「あなたは疲れている。このベッドに座りなさい」と声をかけてくれた。変な気持ちだったが、その人の横に座り片言の英語で話を始めた時、心が癒された。「貧しい人のところに行つて接するとき、身体に触るとき、それは単に貧しい人に触っているのではありません。あなたはキリストの身体に触っています」とマザー・テレサの言葉を思い出した。仏教徒であったが、自分が癒された体験がずっと頭に残っていた。死んでいくおじいさんの中にイエス様がいて、そのイエス様が私を癒してくれたのではないかと思うようになった。私は、その後も何度もカルカッタに行くことになる。マザー・テレサにもう一度会

いたかった。1996年のクリスマスもカルカッタにいた。退院したばかりのマザー・テレサが、修道院のバルコニーに立ち、力強い声で呼びかけた。「みなさんが貧しい人にしてあげよう、イエス・キリストにしていることなのですよ」と何度も繰り返した。先週は死にかけていたのに、一体どこからあの力がくるのだろう。理解できない感情がこみ上げ、涙がこぼれた。マザー・テレサの最後のクリスマスは、私にとって忘れられないクリスマスとなった。

1997年9月5日、インドのボランティアを終えた帰国日、雷の影響でフライトが翌日に延期となった。用意されたホテルの受付で、マザー・テレサが亡くなったと聞いた。信じられず、眠ることもできず、こっそりマザー・テレサの家に行った。香部屋に横たわると、マザー・テレサに会うことができたが、それでも信じられない。私は大声で泣いた。マザー・テレサを通して祈り続けていた自分に気づき、洗礼を受けようと思い始めた。2001年、同時多発テロが起きた年。平和のために祈りたいと思い、玉造教会に行くようになった。聖体拝領が始まったとき、「お前はそのままよい」と強い何かを感じた。仏教徒であっても、神様が愛してくださっている。そのまま洗礼を受けなくてよいのと思った。当時の松浦悟郎補佐司教に相談すると、「そのままよいから洗礼を受けなさい。それがあなたの転換期になる」と言われた。恥ずかしがりな自分ではない自分を、そのままよいとイエスが受け入れてくださる。それが信仰の始まりだと言われた。そして、昔の北野教会で洗礼の準備を始めた。2002年3月に洗礼を受け、2006年に神の家の宣教師会に入会する。

終生誓願式や叙階式の前、神の愛の宣教師会の神父として本心に自分がやっていけるのか、不安だらけで、神の愛の宣教師会の司祭修道会を創立した神父が作った「聖母マリアの祈り」を朝起きてチャペルに入るや否やひたすら毎日祈った。今考えている不安私におこる予期できないこともマリア様に全て委ねて、必要とするすべてを期待に満ちた信仰をもって求めることが出来るように、すべてを謙虚に受け止め希望する。このような毎日の祈りのなか神父になった。すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです。(コリントⅡ 12・9-10)

の宣教師会の司祭修道会を創立した神父が作った「聖母マリアの祈り」を朝起きてチャペルに入るや否やひたすら毎日祈った。今考えている不安私におこる予期できないこともマリア様に全て委ねて、必要とするすべてを期待に満ちた信仰をもって求めることが出来るように、すべてを謙虚に受け止め希望する。このような毎日の祈りのなか神父になった。すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです。(コリントⅡ 12・9-10)

の宣教師会の司祭修道会を創立した神父が作った「聖母マリアの祈り」を朝起きてチャペルに入るや否やひたすら毎日祈った。今考えている不安私におこる予期できないこともマリア様に全て委ねて、必要とするすべてを期待に満ちた信仰をもって求めることが出来るように、すべてを謙虚に受け止め希望する。このような毎日の祈りのなか神父になった。すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです。(コリントⅡ 12・9-10)

みんな！ 平和のために推し活しようぜ



明石教会平和月間プログラム 中高生の広島巡礼

平和月間プログラムに参加

8月5日〜6日にかけて、明石教会の平和月間プログラムである「中高生の広島巡礼」に参加の12人(明石教会、姫路教会他)が広島に行き、平和祈願ミサ、資料館見学、被爆者家族の証言、広島教区のユースプログラムなどで平和について学んだ。

参加者の感想

原爆を落としたパイロットの話聞いたことがあり、アメリカでは原爆は正義だと語られる中、罪悪感から心を痛め、その上批判もされたそうです。資料館の展示を見て、そのことを思い出し、核兵器は誰も得せず不幸にすると思いましたが、他にも原爆によってこの作品と出会ったのは、人生をどう歩んでいいかと迷っていた若かりし頃です。人生の指針、指南役になってくれた作品です。常に探究していくという思い、その志は今も変わらず、そのおかげで一つの到達点に達することができました。とても思い入れのある作品です。

【プロフィール】 使徒ヨハネ 森 一幸神父 2013年 司祭叙階(東京教区) 八王子・銚子・佐原教会司牧 2022年 高松教区出向(桜町教会) 2025年 番町・小豆島教会担当司祭



『名人伝』(中島教著) インターネット図書館青空文庫



教区内の司祭が記憶に残る、また心に残った書籍等を司祭紹介を兼ねて掲載。



『不射の射』(名人伝) YouTube動画



失われたたたくさんの人たちの遺品があり、特に放射能や爆風に晒されて亡くなった人たちのコーナーでは、家族へのメッセージがあり、自分は家族ではないけれど深い悲壮感を感じたり、石段の人影だけが残されている展示を見て、一瞬で人が亡くなる怖さを感じたりもしました。また、被爆者の方々、その後の生活も辛かったようで、上京すると差別にあっていたと聞きました、同じ日本人なのに……。

(文 明石教会主催、中高生の広島巡礼) 参加者一同

来目



ヨハネ 1・46

※詳細は各主催者へ直接お問い合わせください。

教区委員会主催

カンボジア巡礼ツアー◆「カンボジアの日献金」で支援する子ども教育プロジェクトを訪問

日時 2026年2/9(月)~2/15(日)
 参加費 約30万円 詳細決定後、教区より告知
 定員 12名(最少催行人数6名)先着順
 申込 詳細決定後、教区より告知
 問 一般社団法人 JLMM
 ☎0467-40-3452
 ✉jlmm@jade.dti.ne.jp
 主催 大阪高松大司教区 教区本部事務局
 ☎06-6941-9700

性虐待被害者のための祈りとつぐない◆第6回 テゼによる祈りの集い

日時 10/4(土)14:00~15:00 (その後懇談会)
 場所 サクラ ファミリア
 主催・問 ハラスメント対応委員会
 ☎06-6941-9700

サクラ ファミリア主催

聞かせてください 神さまと出会った時のこと~エマオへの道で~◆大阪高松教区で働く司祭・修道者ご自身の体験をさく

日時 10/6(月)18:00~19:30
 10/7(火)10:30~12:00
 お話 馬込新吉神父 (マリア会・大阪明星学園理事長)

コレーン神父の聖書講座◆「ルカ福音書における受難・復活物語・ルカからのメッセージ」全4回

日時 10/20(月)・11/10(月)・12/8(月)13:30~15:00

和田幹男神父◆聖書研究講座「新約聖書概論」

日時 10/15(水)13:30~15:00

和田幹男神父◆新約聖書ギリシア語(初級)

日時 10/6・20(月)17:00~18:30

祈りのよる◆灯りをかこみ、ともに祈る静かな時間を

日時 毎月17日19:00~19:30

問 サクラ ファミリア
 ☎06-6225-8871
 ✉f.sacra@ostk.catholic.jp

結婚準備講座

夙川教会
 日時 10/4(土)~10/25(土)16:30~18:00(4回)
 次回11/2(日)~11/23(日)14:00~15:30(4回)

参加費 ¥5,000(2名)
 問 ☎0798-22-1649

六甲教会
 日時 次回2/1(日)~2/22(日)14:00~16:00(4回)

参加費 ¥5,000(2名)
 問 ☎078-851-2846
 ✉renraku@rokko-catholic.jp
 ※事前要問合せ(年2回)

黙想会

宝塚黙想の家

◆日帰り黙想会
 日時 10/23(木)・10/24(金)10:00~15:30
 指導 染野治雄神父(10/23) 山内十束神父(10/24)
 参加費 ¥3,500

◆一泊黙想会

日時 10/17(金)17:00~10/18(土)15:30
 指導 染野治雄神父
 参加費 ¥9,000

◆カトリック教会のカテキズム

日時 第1・3(水)10:00~12:00
 指導 染野治雄神父
 参加費 ¥1,000

◆祈りを深めるための聖書の基本

日時 第1・3(水)10:00~12:00
 指導 山内十束神父
 参加費 ¥1,000

◆新約聖書の世界への旅

日時 第1(月)19:00~
 指導 山内十束神父

問 宝塚黙想の家
 ☎0797-84-3111

講座・研修会

アネモネの会◆高橋聡神父カテキズム黙想会

日時 10/23(木)14:00~16:00
 場所 サクラ ファミリア
 問 高橋聡神父
 ☎090-6329-5709

シドッティ神父が伝えたレガシー◆巡回展・講演会

講師 古居智子さん(作家・著書『密行 最後の伴天連シドッティ』)

日時・場所 【神戸海星女子学院大学】
 講演会 10/1(水)10:00
 巡回展 10/1(水)~10/9(木) 土日を除く

【大阪高松カテドラル聖マリア大聖堂】

講演会 10/11(土)14:00
 巡回展 10/11(土)~10/23(木)
 【サクラ ファミリア】

講演会 10/25(土)14:00
 巡回展 10/25(土)~10/26(日)
 主催・問 NPO法人やくしま未来工房
 ✉info@yakushima-sidotti-museum.com

後援 イタリア文化会館 大阪・カトリック大阪高松大司教区・カトリック鹿児島司教区他

講座◆小さくされた人々のための福音

日時 第3(金)10:00
 場所 神戸学生青年センター
 参加費 ¥1,000
 主催 神戸国際支縁機構
 問 岩村 ☎070-5045-7127

集い

第11回河内キリシタン祈念祭◆「信愛の森」にて野外ミサと分かち合い

日時 10/11(土)10:00受付開始
 場所 大東教会(巡礼指定教会)で受付後、「信愛の森」へ(雨天時は大東教会でミサとわかちあい)

持ち物 弁当・飲み物
 主催・問 大東教会
 ☎072-876-5434 中川・中田

大阪JOC◆働き方や生き方について現状から共に考える15~35歳までの若者の集い

日時 第2(土)14:00~16:00
 場所 大阪YCWセンター(またはZoom)

問 レネ神父・水元
 ☎072-232-8063
 ✉osakaycw@gmail.com
 HP http://www.ycw.jp/

要約筆記グループ「エフファタ！」練習会◆教区ミサに要約筆記(文字表示)をつけるボランティア
 日時 第2(水)10:00~12:00

場所 教区本部事務局 1階会議室

問 障がい者委員会
 ✉dis@ostk.catholic.jp

精神・発達症(障害)者自助グループ◆オリーブの集い

守秘義務と分かち合い
 いつ来てもウェルカム
 当日キャンセルOK

日時 第3(日)14:00~16:00

場所 姫里集会所
 参加費 無料(12月のクリスマス会だけ実費)

申込 吉川まで
 問 ☎078-583-2525
 ✉yassan.yoshikawa@nifty.com

点訳ネット「レジナ」◆勉強会

対象 パソコン点訳に関心のある方、視覚障がい者の情報共有に関心のある方

日時・場所 奇数月 第2(火)13:30~15:00 姫里集会所

偶数月 第2(水)13:30~15:30 北須磨教会

申込 笠松まで
 問 ☎090-5661-4324
 ☎072-722-0271

✉kasamatsu-yukisan@iris.eonet.ne.jp

聴覚障がい者ボランティア会◆聖書の手話表現の学び・教区活動の手話通訳者派遣

対象 手話に興味をお持ちの方 ※手話講習会ではありません

日時 第1・3・5(水)10:00~14:00

場所 姫里集会所
 問 障がい者委員会
 ✉dis@ostk.catholic.jp

マザー・テレサ共労者の集い◆大阪梅田教会

日時 第1(土)14:00

問 高塚 ☎06-6921-0693

◆加古川教会
 日時 第3(火)13:00~14:30
 問 森田 ☎079-426-5704

【お詫び】

7月号2面2025年度小教区ブロック司牧人事表に紀泉ブロック(協力)Sr.川野恩美さんが記載されていませんでした。お詫びし訂正いたします。(広報委員会)

行事等日程

10月	
2 木	[常任司教委員会]
7 火	ロザリオの聖母 大阪高松教区 守護聖人
8 水	10時半 顧問会・責任役員会 13時半 司祭評議会
19 日	世界宣教の日(献金) INTERNATIONAL DAY
22 水	10時半 司牧者集会
26 日	教区典礼研修会
11月	
1 土	諸聖人
2 日	死者の日
3 金	11時 教区納骨者および死者 祈念ミサ(カテドラル)
6 木	[常任司教委員会]

10月司教予定

「行事等日程」以外
 ・10/4~11 聖年公式巡礼(†M)
 ・10/13 横浜教区 一粒会大会(†S)
 ・10/14~15 管区司教会議(†M)(†S)
 ・10/23~26 巡礼(†M)
 ・10/30~11/6 聖年「教育界の祝祭」(パチカン)(†S)
 †M=前田万葉枢機卿 †S=酒井俊弘補佐司教

甲山共同納骨所

墓標追加工事に伴う

納骨一時受入れ中止のお知らせ

工事期間:2025年12月初旬~2026年1月末予定
 *当日の天候や工事内容により、作業時間や工期が変更する場合がございます。

〈問い合わせ先〉

教区本部事務局 総務課(墓地担当)

電話:06-6941-9705(平日)

第50回ネットワークミーティング in 大阪高松教区

もろてえ あげてえ あげてもろてえ♪

日程:2026/2/21(土)~22(日)

集合:玉造教会 / 泊:賢明学院小学校

対象:18歳以上35歳以下(高校生不可)

定員:120名

参加費:5,800円
 2,500円(参加費のみ 宿泊先各自手配の場合)

主催:NWM in 高松実行委員会

問合せ:osaka.takamatsu.nwm50@gmail.com

後援:大阪高松大司教区青少年司牧委員会

カトリック青年連絡協議会

申し込み QRコード(左)▶▶▶

Instagram(右)▶▶▶



はばたき

8月24日の「聖書と典
 礼」で、徳島地区
 教会司牧神父様の「山登
 りと信仰の道」を拝読致
 しました。大変心に沁み
 ました。私も過去に、山登りの
 経験があります。私は両
 膝が悪く、痛みを感じて
 の登山でした。普通は痛
 みがあれば山登りに行く
 計画は立てないと思いま
 す。聖書に書かれてるよう
 に、その時は「狭い戸口
 から入るように努めなさい
 い」という言葉は、当然
 知りませんでした。今、司牧神父様の
 「山登りと信仰の道」を
 読んでその言葉を知り、
 それは、「狭い戸口から
 入りなさい」と言う意味
 だったのかなと考えます。
 これからも、まだまだ
 苦し道のりを越えて見
 えてくる心からの喜びと
 これから歩んで行く力強
 い希望が、狭い苦しい道
 でもあえて進んで行ける
 と、確信をもって行きた
 いと思いました。
 阿南教会 本村 敬